



のぼりべつ 社協 だより

noboribetsu shakyo



特集
災害も団結して
乗り越えられる地域へ

鷺別小学校区きずな推進委員会で、毎月第2土曜日に行っている「しゃべっ茶お」の様子。新しくなった鷺別小学校の多目的ホールを会場に、介護予防体操やゲームを楽しんでいます。

CONTENTS

- P 2 特集 災害も団結して乗り越えられる地域へ
- P 4 歳末たすけあい運動が始まります
- P 6 きずなかわら版
- P 7 鷺別民児協が全国表彰を受賞しました
きずなのまちびと
- P 8 赤い羽根講演会を開催しました！
寄付者のご紹介



2018
11.01 No. 138

[発行] 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
 [事務局] 登別市片倉町6-9-1 登別市総合福祉センターしんた21内
 [TEL] 0143-88-0860
 [FAX] 0143-88-4546
 [mail] info@kizuna-shakyo.jp
 [H P] http://kizuna-shakyo.jp/
 [Facebook] https://www.facebook.com/kizunashakyo/



この社協だよりの発行は、赤い羽根共同募金の支援を受けています

特集 災害も団結して乗り越えられる地域へ

9月6日未明、最大震度7の揺れを観測した「北海道胆振東部地震」。登別も震度5弱の揺れに見舞われ、全市的な停電、交通の混乱、物資の品薄等の影響がありました。

6年前の暴風雪による大規模停電の教訓を踏まえ、日頃から災害を意識した地域の見守り活動に取り組み町会役員や民生委員・児童委員の方々は、地震発生直後から住民の安否確認や安全確保のため対応に動き出していました。その様子や対応をお伝えします。

日頃からの備えで迅速な対応

新生町三丁目町会 会長 中山 晃一さん
副会長 瀧川 正義さん

地震発生直後に、町会長と副会長で災害本部を立ち上げ、夜が明け安全に動けるようになってから、主要メンバーを中心に町会全世帯の安否確認と、建物の損害状況を確認しました。日頃から町会独自に緊急時を見据えた連絡網や避難するにあたっての班決めを行い、それに基づいた避難訓練を実施していたため、1時間ほどで安否確認を終えることができました。

集会所を避難所として開放し、町会で備えてあった発電機を使い携帯電話の充電や炊飯、パソコンを使った災害情報のチラシの作成を行うことができました。

した。私たちの町会は停電の回復が翌日7日の22時と市内でも遅い方でしたが、日頃からの備えを活かし団結して対処できたのではないかと思えます。

6年前の大規模停電の教訓を活かし、発電機や備蓄品を町会で購入していました。また、独自に災害時の行動マニュアルとなる計画書を作成し、すぐ取り出せるようファイリングしたものを各家庭に配布する等、日頃から災害時に対する危機感や、町会全体で備えようという気持ちは強く持っていました。

今回は安否確認が比較的迅速に行えはしたものの、中には停電で電話やドアベルが機能せず、連絡を取るのに困難な場合もありました。今後の課題として、ホイッスル等、ドアベルの代わりに音を出せる物を用意する必要性や、固定電話だけでなく携帯電話の番号も連絡網に記載しておく必要性を感じました。

もしもの時に1人で動くには限界がありますが、町会で団結して動けば迅速な対応ができます。今回もそのことを強く考えました。



町会と民生委員・児童委員が連携して

香風町会副会長／民生委員・児童委員 伊藤 信一さん

6日の朝、町会役員と民生委員・児童委員が集まり、まずは一人暮らしのお宅を中心に安否確認を行いました。会館を開放し、町会で購入していた発電機を使ってテレビでの情報収集や、携帯電話の充電を行い、町会会員にも利用可能であることを拡声器で伝えて歩きました。その後も、ごみの回収が再開する等の生活情報をくまなく伝えました。今回の地震で大きな被害はありませんでしたが、「これが大雨や大雪の場合であつたらどうなったろうか」と、災害ごとに対応できるよう準備が必要であると感じています。

私たちの町会では、6年前の大規模停電の経験を引きかきに災害への意識が高まりました。毎年防災訓練を行い、各家庭で災害時の備品を用意するよう呼びかけてきました。また、日頃から隣近所で気に掛け合うよう、町会全体として力を入れていこうと声かけを行っていたこともあり、今回は住民同士が自然と気に掛け合う様子が見られました。町会役員や民生委員・児童委員だけでなく、住民一人ひとりが見守り隊となっていくことは、平常時の孤立防止の観点からも必要であり、日頃

から行っていることが災害時にも活かされていくと考えています。

香風町会の強みは、町会と民生委員・児童委員の連携が日頃から取れていることです。町会関係の会議は民生委員・児童委員にも必ず声がかかります。日頃からの体制があったおかげで、今回も町会と民生委員・児童委員が連携し合い、迅速に対応することができたと思います。

日頃からのつながりを深めるために

対応が迅速であった町会に共通しているのは、「日頃からの備え」と「日頃からの関係性づくり」であると言えます。普段の生活の中でも災害への意識を持ちながらできる範囲での備えを行い、近隣の住民同士で顔の見える関係性、もしもの時に助け合える関係性を築いておくことが望まれます。

登別社協が進める事業にも、日頃からの地域のつながりづくりを目指しているものがあります。町会単位で住民同士の見守り支え合いを行う「小地域ネットワーク活動」や、「ふれあい・いきいきサロン」「ふれあい・子育てサロン」のような居場所づくりの取り組み、「ふれあい会食会」や「住民座談会」といった地域の住民が出会い顔見知りになる場の提供等です。

6年前の大規模停電の教訓が活かされ、迅速な対応ができた町会もあった今回の地震。この度の経験を活かし一歩ずつでも進んだ備えとなるよう、日頃からのつながりを深めるために取り組み、災害時にも団結して乗り越えていくことのできる地域を目指しましょう。

レスキューキッチン大活躍

登別社協では、災害時等に備え約100人分の調理ができる移動式の炊き出し窯「レスキューキッチン」を常備しています。平成21年に、登別ライオンズクラブ創立50周年を記念して寄贈いただいたもので、6年前の大規模停電時にも活躍しました。

今回の地震では、のぼりべつ元鬼協議会へ貸し出しを行い、避難所となっていた登別市民会館での炊き出しに活用されました。



義援金を受け付けています

今回の地震により被災された方々の生活を支えるため、登別市連合町内会では11月30日(金)まで義援金を受け付けています。この義援金は、登別市共同募金委員会を通じて被災された方々へ届けられます。詳しくは、登別市連合町内会(電話・84-11079)へお問い合わせください。



Topic 胆振東部地震 災害ボランティアセンターへ職員派遣

厚真町、安平町、むかわ町の三町で災害ボランティアセンターが立ち上がり、全道各地の社協職員が応援に入り支援を行いました。登別社協も9月10日よりむかわ町へ順次職員を派遣し、支援業務を担いました。

●登別社協 ボランティアコーディネーター

後藤 光弘

私は主に被災者からの依頼に対し、ボランティアを送り出す調整業務を担いました。

どんなにひどい状況下でも、住民同士の助け合いで困りごとを解決できていた方や、近所の被災状況を詳しく把握している方にもお会いし、日頃からの地域のつながりが災害時にも活かされているのだと感じました。

住民同士で支え合う力が大切であると再確認すると同時に、今後登別においても更に充実させていく必要があると感じています。



▶むかわ町の道路寸断の現場



▶ボランティア調整の様子

歳末たすけあい運動が 始まります

運動期間

12月1日(土)～12月31日(月)まで

目標額

550万円



△登別地獄まつりのイベント募金の様子

歳末たすけあい運動とは？

「歳末たすけあい運動」は、毎年12月に共同募金運動の一環として、地域住民やボランティア、民生委員・児童委員、社会福祉施設、社会福祉協議会等の関係機関・団体の協力のもと、新たな年を迎える時期に、支援を必要としている人たちが安心して暮らすことができるよう、様々な福祉活動を重点的に展開する運動です。

皆さんからお寄せいただく募金は、すべて登別の福祉活動に活用されます。

募金を活用した福祉活動

- ◆歳末見舞金贈呈・120万円
経済的支援が必要な世帯等へ見舞金を贈る取り組み
- ◆きずなのまちづくり助成・50万円
きずなの趣旨に賛同し福祉活動を実施する団体等への助成
- ◆ふれあい会食会・120万円
町内会役員と高齢者等とのつながりを深める取り組み
- ◆ふれあい・いきいきサロン・100万円
高齢者等の生きがいと居場所づくりを進める取り組み
- ◆小地域ネットワーク活動・70万円
町内会による見守り・支え合い活動を広げる取り組み
- ◆地域の支えあいづくり創出・10万円
地域の協力のもと、移動・買物支援等を行う取り組み
- ◆地域共生社会の実現・25万円
地域福祉の拠点づくりに対する支援を行う取り組み
- ◆地域福祉推進運営事業・50万円
きずな活動の推進や、地域福祉事業を推進するための取り組み
- ◆在宅介護支援・5万円
公的制度を利用できない人へ、車いすや福祉用具の貸出を行う取り組み

募金方法

登別市共同募金委員会では、町内会のご協力のもと、各世帯に歳末たすけあい運動の啓発チラシと募金用封筒を配布して協力の呼びかけを行います。11月中旬以降にご案内いたしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。町内会の募金納入は取りまとめの都合上、**12月26日(水)**までをお願いいたします。その他、各チャリティーの益金等についても受け付けています。



赤い羽根でつながる優しさの輪

災害支援の取り組み

全国の共同募金会では、災害時における様々な支援活動を行っています。ここでは、北海道胆振東部地震に対する取り組みを紹介いたします。

●義援金

義援金は全額、被災された方への見舞金として届けられます。義援金の受付は、登別市共同募金委員会で行っています。

【募集期間】平成30年9月12日(水)～平成31年3月31日(日)

●支援金

被災地で様々な支援活動を行うボランティアグループやNPO法人への支援を行うための募金です。支援金の受付は、中央共同募金会で行っています。

●災害等準備金

災害発生後、すぐに災害支援が必要な場合に備え、赤い羽根共同募金運動で集まった募金の一部を災害等準備金として積み立てています。義援金や支援金は被災者への直接的な支援として使われるのに対し、災害等準備金は主に災害ボランティアセンターの運営や、ボランティア団体の支援に活用されています。



寄付金付き記念バッジ取り扱い中!

登別限定の寄付金付き記念バッジを取り扱っています。今年は市のPRキャラクター「登夢くん」とクマが描かれたデザインになっています。
ご希望の方はお近くの商品取り扱い場所までお越しください。

《商品取扱場所》 10月1日現在

登別市社会福祉協議会・登別市役所内母子会売店・
登別パークサービスセンター売店(地獄谷入り口)



登別ならではの取り組みを始めてみませんか

共同募金運動は、じぶんの地域をより良くするため、募金活動への参加や寄付を通じて応援していく民間の運動です。

活動の参加方法も様々なものがあります。できるカタチで一緒にこのまちを想い、やさしさの輪を広げませんか。取り組みを希望される方は、ぜひお問い合わせください。

《取り組みの一例》

●赤い羽根を着用してPR

業務中や活動中に赤い羽根を着用することで、PRにつながります。ぜひ企業・団体の皆さんで赤い羽根を着用し、赤い羽根サポーターとして一緒に活動を応援しましょう。

●ポスター掲示でPR

施設・企業・事業所・商店等にポスターやのぼり旗の掲示をする取り組みです。共同募金運動を広く市民にPRするために、ポスター1枚から始められる協力のカタチです。

●登別オリジナルの寄付金付き商品の開発

法人や企業で制作している商品とのコラボや、手作りの品物を寄付金付き商品にすることもできますので、お気軽にご相談ください。

●募金型自動販売機の設置

商品の購入代金の一部が募金となるしくみです。現在、登別市内では3か所に設置されています。

【設置企業・団体(設置場所)】

- ・ホテルゆもと登別(ホテルゆもと登別従業員用)
- ・登別市社会福祉協議会(登別市総合福祉センターしんた21)
- ・社会福祉法人ホープフロンティア登別(フロンティア登別)



▲市役所や市議会、教育委員会にもご協力いただいています

お問合せ先

登別市共同募金委員会

電話: 88-10860

FAX: 88-4546

シニア元気アップ講座と合同開催 サロンサポーター 連絡会を開催しました！



登別社協では、市内サロンの情報交換やネットワークづくり、運営者の知識向上等を目的にサロンサポーター連絡会を開催しています。

今年度第1回目は、市と地域包括支援センターによるシニア元気アップ講座と合同で開催し、登別市民会館、鷺別公民館、登別市婦人センターの3会場で約100名の方々にご参加いただきました。

JCHO登別病院、登別すずらん病院のリハビリ専門職の方々のご協力もいただき、健康寿命や転倒予防についての講義、自宅で行うことのできるストレッチの方法や、認知症予防につながるレクリエーションの紹介等のほか、握力測定やバランス感覚の測定、歩行スピードの測定等の体力測定も実施しました。測定結果は参加者の皆さんにもお持ち帰りいただき、次回開催時のデータとも比較をしていただけるようになっていきます。

参加者の皆さんからは、「レクリエーションの紹介が参考になった」「健康維持について幅広い内容でためになった」といった声が聞かれました。第2回目のサロンサポーター連絡会は11月頃を予定しています。サロン運営者、サロンサポーターの皆さんのご参加をお待ちしています。



▲3文字の言葉をつくるカードに挑戦

サロンをはじめてみませんか

地域の住民が集まり、お茶を飲みながらおしゃべりをしたり、介護予防のために身体を動かしたり…そんな地域の居場所となるサロンをはじめてみませんか。

登別社協では、地域で暮らす高齢者の方が集まる「ふれあい・いきいきサロン」（市内45か所）、子育て中のお父さんお母さんと子どもたちが集まる「ふれあい・子育てサロン」（市内3か所）の立ち上げや運営の支援を行っています。

また、サロンで活用できるレク用品の貸出しも行っています。詳細は、登別社協で発行している「きずなレンタルカタログ」に掲載しており、社協事務所がホームページよりご覧いただくことができます。貸出し物品の数には限りがあるため、事前にお電話でお申し込みください。

〈貸出し物品の例〉

- ・ 輪投げ、ストラックアウト等のレク用品
- ・ 脳トレ用のゲーム用品
- ・ 室内ゲームを紹介した本
- ・ 子ども用のおもちゃ
- ・ プロジェクター、スクリーン
- ・ お祭り等のご利用いただける屋外テント



▲サロンサポーター連絡会で紹介したゲーム用品も貸出しています



鷺別民児協が 全国表彰を受賞しました

この度、鷺別地区民生委員児童委員協議会（以下、鷺別民児協）が日頃の活動を評価され、全国民生委員児童委員大会において「優良民生委員児童委員協議会表彰」を受賞しました。

定例会への委員の皆さんの出席率の高さや、会則・年間事業計画、予算書を策定していること、機能的な専門分科会を設置していること等が高く評価されました。

鷺別民児協はこれまで、子どもの育成支援や高齢者の居場所づくり、町内会や登別社協への協力等、福祉のまちづくりのため熱心に活動されてきました。地域への訪問活動や、困りごとを抱える方への相談支援にも力を入れ、行政機関や地域包括支援センター、学校等との連携を目的とした意見交換会を設ける等、地域の関係機関とのつながりづくりにも尽力されてきました。

この度の受賞、誠にありがとうございます。



▲鷺別民児協集合写真（平成29年8月撮影）



▲登下校時の見守り活動の様子

まぢびとのまちびと

このコーナーでは、地域で精力的に活動されている方のきずな活動に対する想いや、これからの活動の展望などをお伝えします。

今回は、鷺別地区民生委員児童委員協議会会長

「変わらないやりがいを胸に」

鷺別地区民生委員児童委員協議会会長

川島 芳治さん（鷺別町）



この度、鷺別地区民生委員児童委員協議会（以下、鷺別民児協）で「優良民生委員児童委員協議会表彰」をいただくことができました。

日頃の活動を評価していただき、嬉しく思います。会長の私から見ても、鷺別民児協は「真面目」であるという印象です。特に昔から長く務めている方は本当に熱心で、自分の担当地域への訪問回数がとても多く、感心しています。

個人としても、鷺別民児協としても、特に力を入れているのはやはり一人暮らしの高齢者の見守りです。鷺別地区も一人暮らしの高齢者がどんどん増えているので、雇用の場を増やす等の工夫を凝らし、何とか若い世代にも住んでもらえる町にならないかと感じています。

私が地域福祉活動に関わるようになった最初のきっかけは、まだ30代の頃に町内会の子ども会の

「まぢびとには、登別のまちの人、問題とひとをマッチングさせる人、布の長さを補うまちのように地域を補う人という意味が込められています。」

川島芳治さんにお話を伺いました。

担当を引き受けたことでした。その頃は子どもも多く、その分いたずらっ子や手のかかる子どもいたので、家庭から相談を受け子ども問題の仲裁に入るといこともありました。子ども会でキャンプをする時には予算がなかったため、子ども達と一緒に廃品回収をしてお金を工面しました。今となっては良い思い出となっています。

その時から考えると、もう40年も地域福祉の活動に関わっています。民生委員・児童委員を務めてからは24年になります。

気が付けば、町内会会長や民生委員・児童委員、保護司、ふれあい・いきいきサロンの代表、登別社協の理事等、関わる活動や担う肩書きも多くなっていました。しかし、振り返ってみると感じる大変さよりも、困っている人たちの生活が少しでも良くなっていくやりがいと喜びの方が大きかったと思います。40年前に子ども会に携わった頃から、どこが変わらない楽しさが自分の中に入り、きっと今日まで続けてこれたのだと思います。

自分も次第に高齢となり、いつまで元気に活動できるかわかりませんが、できる限り今後も尽力したいと思っています。

赤い羽根講演会を

開催しました！



市民の方に赤い羽根共同募金運動と、その運動が「しんがの町を良くするしくみ」であると知っていただくため、9月18日登別市民会館において、赤い羽根講演会を開催し、約70名の方にご来場いただきました。

はじめに、北海道共同募金会常務理事 天羽 啓 氏より赤い羽根共同募金の成り立ちや仕組み、災害ボランティアセンターと共同募金の関係、全道における募金実績の実情などについて講演いただきました。

続いて、登別市共同募金委員会で作成した共同募金のPR動画を上映し、事務局より登別市内で行っている共同募金運動の取り組みや、昨年市内で集められた募金の活用方法について説明しました。会場では、イベント募金ブースの設置と、北海道胆振東部地震災害義援金の募金箱を設置し、多くの方にご協力をいただきました。

今後、このような機会を設け、多くの市民の方に「赤い羽根共同募金」について知っていただけるよう取り組んでいきますので、引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

また、個別に町内会の集会などに伺い、共同募金のPR動画の上映や簡単な説明も行うことができますので、ご希望の方はお気軽に事務局（88-00860）までお問合せください。



寄付者のご紹介（平成30年8月1日～平成30年9月30日）

（敬称略／単位：円）

受領年月日	寄付者名	寄付金額	寄付の目的
H30.08.02	今 順子	3,000	きずなシンポジウムの謝礼金を社会福祉のために
H30.08.10	石坂光汰朗	2,666	社会福祉のために
H30.08.24	幌別地区ビールパーティー実行委員会	289,928	第34回幌別地区ビールパーティーの益金を社会福祉のために
H30.09.03	チャリティチャレンジ歌謡選手権大会	10,000	「演歌熱唱」の益金の一部を社会福祉のために
H30.09.11	鳥居 一頼	10,000	平成30年北海道胆振東部地震の被災地支援活動のために
H30.09.16	鷺別工リア歌謡交流会実行委員会	10,000	「チャリティチャレンジ歌謡交流会」の益金の一部を社会福祉のために
H30.09.18	はまわしの会	4,000	ふれあいフェスティバルチケット返金分を社会福祉のために
H30.09.21	高橋 良夫	1,000	ふれあいフェスティバルチケット返金分を社会福祉のために
H30.09.21	中川 フミ	1,000	ふれあいフェスティバルチケット返金分を社会福祉のために
H30.09.21	松本 優子	3,000	ふれあいフェスティバルチケット返金分を社会福祉のために
H30.09.26	匿 名	1,000	ふれあいフェスティバルチケット返金分を社会福祉のために
H30.09.28	佐孝 隆	1,000	ふれあいフェスティバルチケット返金分を社会福祉のために

愛の小箱等設置協力者のご紹介（平成30年8月1日～平成30年9月30日）

（敬称略／単位：円）

受領年月日	設置協力者名	寄付金額	種 別
H30.08.16	いずみ亭	24,326	愛の小箱
H30.08.24	社協ふれあいの店	2,600	ハンドメイドガチャ
H30.08.24	社協ふれあいの店	1,900	ハンドメイドガチャ
H30.08.27	協同組合登別中央ショッピングセンター	2,400	ガチャガチャ
H30.09.28	協同組合登別中央ショッピングセンター	5,400	ガチャガチャ

上記期間にお届けいただいた団体等のみ掲載しています。